

(社)京都府情報産業協会
地域情報化委員会 各位

地域情報化委員長 古川峰生(文責)

第 1 回地域情報化委員会 議事録

開催日時 平成 1 5 年 5 月 2 0 日(火) 1 5 時 ~ 1 8 時

開催場所 (社)京都府情報産業協会 事務所(京都コンピュータ学院駅前校 1 F)
後半は 6 F で議論

出席者 (順不同、敬称略) 1 8 名

木下(エクザム)	西尾(キャリアネットワーク京都)
山本(京信システムサービス)	駒井(京都電子計算)
小林(ケーケーシー情報システム)	高島(サツマ通信工業)
足立(シゲル情報サービス)	山本(島津エス・ディー)
直江(島津ビジネスシステムズ)	古川(総合システムサービス)
小林(宝ネットワークシステム)	土井(日本コンピューターファシリティ)
馬場(バンテック)	藤関(ユニシス)
寺澤、他 1 名(アシスト)	後藤(N E C システムテクノロジー)
河内(キャノン販売)	

セミナー、報告及び議事

- 1) 「京都デジタル疎水ネットワーク」セミナー
- 2) 14 年度最終の地域情報化委員会以降の状況報告
- 3) 15 年度対応テーマの議論及び今後の進め方

議事・報告内容

- 1) 「京都デジタル疎水ネットワーク」セミナー
 - ・京都府企画環境部 IT 推進担当 岡田企画主任より資料に基づきご説明を戴いた後質疑応答を実施する。
 - * 民生利用も基本的には了承する方向であるが総務省の補助金主旨から単独企業のみを利するような用途は問題となる。相談を戴きたい。
 - * 専用線のイメージで使用できるのでセキュリティ面での問題は少ないと考えている、用途を考えると回線余裕(速度性能は額面どおりに稼働)は十分ある。
 - * 電子府庁の構築は 15 年度スケジュールである。1 3 0 0 種類の申請書等様式のダウンロード、職員採用の手続き申請受付、「例規集」が参照可能、等が先行着手されている。
- 2) 14 年度最終の地域情報化委員会以降の状況報告
 - ・新 IT 基本戦略では「IT の基盤整備」から「IT の利用・活用の推進」の段階に移っていると説明し、「京都デジタル疎水ネットワーク」、「京都 ONE 構想」等の行政の動きに連携した活動の重要性を説明する。
 - ・同志社大学のリエゾンオフィス、及び同大学の工学研究科・知識工学専攻の金田教授の活動内容を説明する。リエゾンオフィスとしては多岐にわたる分野に対応は出来な

いので取り組むべきテーマを絞り込むことを要請されていると報告する。

3) 15年度対応テーマの議論及び今後の進め方

- ・ 京都デジタル疎水ネットワークを利用するテーマ考慮例として以下の概要を説明する。
 - * 遠隔医療分野（画像伝送、画像処理他）
 - * 中小企業の電子商取引（XML - EDI , B P I D他）
 - * 防災関連（広域化対応、統合GIS他）
 - * 行政情報（広報）の多元的活用（New s M L , マルチメディア情報の管理他）
- ・ 高速回線を利用した会議システム分野が適切でないかの意見もでる。
- ・ 地域情報化委員会としては直に仕事に直結する材料を期待するのではなく、行政の動きを広く広報し、各社が企業としてどう取り組むかを別途判断するのが良いのではないかの意見もでる。
- ・ 議論が多く出たが全体を一元化することは出来ない所以以下に議論を集約する。
 - * 地域情報化委員会下にいくつかのWGを作る。
 - * WG参加の呼びかけを近々に実施する。WGは京都府の担当部局と調査・研究を実施していく。
 - * 2ヶ月に一度、地域情報化委員会を開催しWGの活動内容を報告する。委員の方々は新たに興味のあるWGに順次参加すればよい。
 - * WGと京都府の担当部局との議論、調査研究が行政施策やソリューション開発に発展させることが地域に貢献する事に繋がる。

以上